

「Eco列車でいこう!」 ~第83回 台湾ふたたび~

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

4月30日の成田空港。ゴールデンウィークの出国ラッシュは前日の29日だったようで、あまり混雑はしていない。

14:30の中華航空機は30分くらい遅れて出発。少しまずいことになってきた。

今回の旅はツアーではなく、格安航空券と、ネットで予約した列車のチケット、ホテルのバウチャー券を用意した個人旅行だ。

台北桃園空港着18:00。45分の延着である。空港ターミナルをダッシュし、両替をした後、入国審査を通過し、すぐにタクシー乗り場へ。最寄りの「高鉄」桃園駅に向かう。「高鉄」は台湾の新幹線で、車両は川崎重工製なので車内も日本の新幹線のような。快適な座席で台北駅についたのが19:25頃。あらかじめ購入していた19:00発の特急「自強号」花蓮行きには間に合わなかった。次の自強号は21:30発で、花蓮着は深夜の0:45着になってしまい、さすがにしんどい。

台湾東海岸中部の街「花蓮」は観光都市で、断崖絶壁の「タロコ渓谷」に近い。初日にそこまで行って、翌日「渓谷を堪能しよう」という目論見が崩れてしまった。

気を取り直して台北駅の雑踏の中で、本日泊まれる宿をネットで検索する。「台北Wi-Fi」に登録しておいたので、街中でネットが使える。お手頃価格の「パンシャオキングホテル」があったので、タクシーの運転手に説明するも、片言の英語が通じない、ナビもついていないので、たどりつくのが難しいと思い、最寄駅までお願いした。

台湾のタクシーは格安だし、安全だ。ぼったくられることもなく、目的地に到着した。パンシャオキングホテルは16階建のあやしい雑居ビルの13階にあった。地震や火事があったらあぶないな。とも思ったが、室内は清潔で快適に過ごすことができた。近くの夜市を覗いたあと、夕食は台湾ビールと屋台で売っていた「鳥もも肉のブツ切り炒め」と「肉まんじゅう」で簡単に済ませた。「鳥もも炒め」は香ばしく肉質も良くうまかった。飛行機の延着によって予想外の1日目となったが、そのトラブルもまた楽しい思い出となった。

台湾旅行2日目。朝食会場に行くと中国語が入り乱れている。予想以上に居心地の良かったホテルをチェックアウトして、台北の中心街に戻る。本日宿泊するダイナスティホテル(王朝大飯店)は事前に予約してあるので、そのホテルに荷物を預けて身軽になった。

最寄りの「台鉄松山駅」から快速で「瑞芳」へ。ローカル線に乗換えて、ランタン飛ばしで有名な「十分」に向かう。3両編成のディーゼルカーは観光客で超満員だ。日本語もちらほらと聞こえる。駅を降りると、単線のレールの両側に、食堂、土産物屋、ランタンのお店などがところ狭しと並び、列車が通らない間、みんな線路内には入ってランタンを飛ばしている。食堂に入り、漢字だけのオーダー表を見て、青菜炒めやラーメンなどを注文する。線路守の笛が鳴ると、線路に入っている人々が外に出て、間髪入れずにディーゼルカーが警笛を鳴らして通過する。安全第一に日本ではありえない光景を見ながら、おいしく料理を平らげた。

16時過ぎ、「瑞芳」まで戻り、バスに乗り越える。

山道を20分くらい進み、背後に東シナ海を望む頃、山にへばりつくような街が見えてきた。

「九份」の街並みである。(つづく)

